



ジェインと同じくわたしのタオル

長谷戸小学校 二年一組 永田 愛佳

このジェインのもうふは、ジェインが赤ちゃんのときにつかっていたもうふを大切にするお話です。

どうしてわたしがこの本をえらんだかというと、それはわたしも小さいころから大切にしているタオルがあるからです。ジェインはもうふのことをもーもとよんでいて、わたしはタオルをしゅんしゅんとよんでいます。わたしは、そのタオルがあるとおちついたり、あんしんしたりします。

タオルはジェインのもうふと同じようにボロボロです。だけど、ちがうことがあります。それは、タオルが二まい目だということ。ジェインは、赤ちゃんのときからずっと一まいのもうふでした。わたしは、さいしよのタオルがボロボロになったので、あたらしいタオルにしました。だから、ジェインはものを大切に、えらいなと思いました。

ジェインは、大きくなるにつれてもうふがなくても大じょうぶになります。だんだんもうふのことをわすれていきます。さいごにもうふは、とりがすをつくるためにもって行ってしまいます。

とりのためにもうふをゆずれくらいジェインが大きくなって、ジェインのおとうさんはうれしいと言います。ジェインもとりの赤ちゃんがもうふにくるまって気もちよく、あたたかくねむれるのなら、あげてよかったと思います。そして、もうふがいらなくなったことをうれしいと思います。

わたしにはジェインのおとうさんとジェインがうれしいと思う気もちがぜんぜんわかりません。わたしはタオルがなくなくなったら、とてもいやでないてしまいます。ジェインもと今までいっしょでした。なのになぜ、もうふがなくても大じょうぶになってしまったのだろう。大きくなるってどういうことだろう。わたしも、タオルがなくても大じょうぶになるのかな。その日がくるまで、タオルを大切にしていきたいです。